

Q10 ノーマライゼーションという言葉をよく聞きますが、どのようなことですか。

ノーマライゼーションの考え方は、1950年代、デンマークの知的障害者の親の会が、巨大な知的障害者の施設（コロニー）の中で多くの人権侵害が行われていることを知り、その状況を改善しようと始めた運動をきっかけにして生まれました。

ノーマライゼーションとは、簡単に言うと「障害を持つ人が社会で特別の扱いを受けることなく、障害を持たない勤労者や生活者と共に社会生活を営んでいけることこそノーマル（正常）」という考え方です。

ノーマライゼーションは、国連総会で決議された「障害者の権利宣言」（1975年）にも影響を与え、特にその第3条（*）でノーマライゼーションの理念が明確に宣言されています。

日本では、ノーマライゼーションの理念が1970年代から注目され始め、1981年の国際障害者年に一般化されました。現在では、障害者だけでなく、高齢者や子ども等、福祉の全ての領域に共通する基本理念として広く浸透しています。

*** 障害者の権利宣言 第3条**

「障害者は、その人間としての尊厳が尊重される生まれながらの権利を有している。障害者は、その障害の原因、特質及び程度にかかわらず、同年齢の市民と同等の基本的権利を有する。このことは、まず第一に、可能な限り通常のかつ十分満たされた相当の生活を送ることができる権利を意味する。」